

山形県水資源保全総合計画検討委員会（第1回）における主な意見

日時：平成25年6月7日（金）14:30～

場所：山形県自治会館 401会議室

- 計画の基本的な考え方として、水資源の保全のみならず、水量の安定確保という点から持続可能な水循環という視点があってもよいのではないか。視点は広がるが、無理のない形で取り入れることは可能ではないか。
- 条例の理念と比べると森林の部分に目新しいものがないと感じる。森林整備について予算を地域に配分するとか国有林の整備について要請を行うなど、もう一步踏み込んでほしい。
- 集水地域のみでなく、全体として水を守るという考えが重要であり必要であると思う。
- 資料1頁の水資源の有効活用について、再生可能エネルギーとしての水の活用については水資源の保全と関係するかどうか難しいところ。消流雪施設への利用は、雪国である山形の文化的な要素もあり、盛り込んでもよいのではないかとと思われる。
- 資料2頁の遊休農地の発生防止に関連して、耕作放棄地は食糧難時代に無理に農地を広げたことによるとする見方もある。今回の計画を機に、元の森林等に戻していくという視点も必要ではないか。
- 啓発という表現は上から目線に感じるので他の表現に改めるべきはないか。